

# 美唄

BIBAI

美唄市三師会講演会

日時：11月13日 13:00より

場所：コア美唄 市民ふれあいサロン

演題：入れ歯と上手に付き合って豊かな毎日を通しましょう

医師、薬剤師、歯科医師で交代で行っている講演会の第57回目を私、宝崎さゆりが行わせていただいた。

会場は主に高齢者の方の憩いの場となっていることもあり、入れ歯の話が聞きたいというリクエストももらった。

今回はせっかく作った義歯を上手に使いこなしてもらうためにどうしたら良いか、義歯の特徴など



を理解してもらいながら話をした。歯科にはやや邪道である市販の安定剤の使い方についても実物を見せながら行った。また見本を用いて金属床などの保険外義歯の紹介も行った。非常に興味を持って見ているのが印象的であった。

義歯はオーダーメイドなので使いこなすには意欲を持って慣らしながら何度も調整することが必要である事を伝えた。(宝崎さゆり記)

宝崎錠二先生道歯会功労会員顕彰受賞 H26.11.15 道歯会館

宝崎錠二先生が、上記顕彰受賞された。道歯会所属50年以上でかつ80歳以上の方のみに与えられる名誉である。

先生は8名の今年度受賞者(うち4名のみ出席)を代表し、受賞の謝辞を述べられた。



本年までは口・タリ・クラブの会長を担当しており、当美唄会平成9年から平成17年までの9年間会長職を務められた。

当日の懇親会も元気に出席された。今後共、お元気で御指導をお願いしたいと存じます。(小森英世記)

障がい者歯科医療連携推進事業講演会 H26.11.19 美唄ホテルスエヒロ

この事業、高齢者の認知症や脳卒中等広義の障がいに対しても活用を認められるようになってから、当会では、前々年度地域包括支援センター-赤沼様より、地域高齢者の実態等を、前年度には、道歯専属衛生士木本氏に釧路、帯広での在宅、医療連携での御経験を御教授いただいたところですが、本年度は「地域で支えよう!」最後まで口から食べること」と題し、道庁保健福祉課医療参事佐々木健氏に「要介護高齢者の低栄養や肺炎対策と、見過ごされやすい歯科の役割」と題し、又、同じく市高齢福祉課主任介護支援専門員の横山香理様に「地域包括支援センターの事業と口腔機能向上の取り組みについて」を御講演いただきました。

当会には珍しく会員以外にも17名のケアマネさんや看護師さん等、折からの多職種連携に対

応するが如く、御来場いただいた。

さらには顔の見える関係を築きたいと柿木道議多職種連携結成会議あいさつという主旨のもと、懇親会にも7名が出席されて相互に自己紹介しあうなど極めて前向きに、あるべき状態へ向かって前進を続けていることを実感させる講演会並びに懇親会となった。

このような形態の集まりを続けていくことにより、歯科口腔の側面から見た多職種の関係づくりを作り上げていくことにより、地域に理想的なシステムができあがっていくことと思います。

飛脚や早馬などに頼ることない、情報伝達共有並びに管理を具体化することにより、さらに実際のものとなることを考えた次第でした。

御講演いただいた佐々木先生、横山様にさらなる御指導を宜しくお願い致します。

(小森英世記)



# 旭川

ASAHIKAWA

平成26年度 第64回 旭川歯科医師会

学術大会開催

平成26年11月8日～9日 に2日間に渡り、旭川トリーホテルにて、平成26年度 第64回旭川歯科医師会学術大会が開催されました。

今回のメインテーマは、「歯科医院力向上」として、参加ターゲットを歯科医師だけでなく、歯科技工士、歯科衛生士まで向けているのが大き



な特徴です。つまり歯科医療を構成する歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士の三者が一体となり同じ目標を持って患者さんの治療を行うという本来あるべき姿を追求する企画としました。

そのため、招待講演も各三者の代表とでもいべき方々に行っていたいただきました。

歯科医師からは、義歯のスペシャリストである、白老町立萩野歯科診療所の本郷英彰先生をお招きし、「患者の満足する総義歯作り」と題して、歯科技工士からは、歯科衛生士のダブルライセンスを持ち大坂在住の西村好美先生



をお招きし、「審美的・機能性を兼ね備えた補綴物形態を目指して」と題して、歯科衛生士からは、フリーランスの歯科衛生士として全国で活躍されている東京在



住の川崎律子先生をお招きし、「チーム医療の実践」～心に響く医療が明日を築く 患者さんにとってかけがえのない人となるために～と題して、それぞれ講演していただきました。

その他、一般公演としては、歯科医師から4演題、歯科衛生士から5演題が報告されました。また、今回初の試みとして、歯科技工士対象のマスターピース製作コンテストが行われ、優秀者の表彰式も行われました。夜の部も、関係者で宴会を行い、講師の先生から実体験に基づいた、本当にためになる意見をうかがえました。



2日間ともに、盛況のうちに今回の学術大会が行われ、大きな成果を残したと思われま。 (詫摩安廣記)

# 岩見沢

IWAMIZAWA

医療管理講習会

日時：11月14日 19:00から

場所：いわなび

2年ぶりに医療事故に関する講習会が約30名の会員を集めて行われた。道歯顧問山下弁護士、関口弁護士、損保ジャパン佐藤氏がそれぞれ過去の事例を含め講演された。医療事故を認識したらすぐに歯科医師会か佐藤氏に相談することが互いのためになるとよく理解できた。またDr.を雇用している場合、院長だけではなく勤務医にも保険をかけねばならず、



さらに道歯企画の勤務医包括特約は安価で幅広い対応が期待できるとのことだった。(久恒泰宏記)

一般臨床医のための歯科矯正講演会

日時：11月30日 10:00～16:00

場所：いわなび

講師：北海道大学歯学部准教授 佐藤嘉晃先生

スマイル矯正歯科 高木伸治先生

道歯主催の診療技術拡大対策事業として標記講演会が開催された。札幌、旭川、美唄からも委員の先生が来て下さり10数名の出席であった。午前の2時間は矯正歯科学総論で、午後の3時間は診断、治療法、材料等の特徴、症例閲覧など、特に矯正治療で生じるリスクの項では考えられる種々のトラブル症例を提示され、他の疾患との関連、医療事故、医療訴訟、専門医との連携、保険適用も含みたっぷり5時間講演して頂いた。(久恒泰宏記)

第5回医療連携推進事業検討会

日時：12月9日19:00から

場所：岩歯事務所

11月29日に行われた情報交換会で発表者だった当会山田貴文理事による報告の後、3月1日に予定

している山田律子先生の講演会で交流会を行うか否かまたはその内容について検討した。色々な方法が各委員から提案され、なかなか意見をまとめるのが難しかったが、近日中に決定し案内を作成する事とした。最後に要介護者とその家族や関係者に配布する小冊子について話し合った。内容を減らしてスリムになったがここでも様々な要望が出された。(久恒泰宏記)



# 函館

HAKODATE

学術講演会

日時：平成26年11月8日 午後2時30分

場所：函館会館 2階第一講堂

講師：日本歯科大学生命歯学部

歯周病学講座 関野 倫 准教授

演題：歯周病学の迷信と真実

～その論文の解釈は正しいか?～

関野准教授は歯周病学において信じられている多くの事項を取り上げ、それらが科学的根拠に基づいて考えた時に本当に正しいのかどうかを、豊富な文献と考察を通して、非常に丁寧に解説された。以下にその一部を掲載させていただきます。

歯周病はエックス線写真で検査可能である エッ

クス線写真だけでは歯周病の進行の指標とならない ルートプレーニングで病的セメント質をすべて除去しなければならぬ 内毒素のほとんどはセメント質表層にあり、病的セメント質をすべて除去せずとも、内毒素は除去できる 超音波スケーラーと手用スケーラーでは歯周組織の治療に違いはあるか 治療に差はない 暫固固定により歯周治療の効果は向上する それ自体に治療効果はなく、基本治療の結果を向上させる効果もない くさび状骨欠損 垂直性骨吸収の原因は咬合性外傷である ブラークに由来する歯周炎でもくさび状骨欠損が生じる 非外科的治療(SRP)と外科的治療の効果の比較 非外科的治療でもアタッチメントゲインは得られる。プロービン



グデプスが6mmを超えた場合は外科的療法が良い フラップ手術で得られる長い上皮性付着は長くないのが 長い上皮性付着の場合も正常な場合も炎症の波及程度に変化はない。ブラークに対する防御機構が劣るわけではない 再生療法と従来の外科処置の比較 再生療法と従来のフラップ手術でのアタッチメントゲインの差はわずかである。骨縁下ポケットの治療の第一選択はフラップ手術であり、再生療法は審美的要求や費用対効果を考慮して選択すべきである EmdogainとGTR法との併用など、再生療法を併用すると効果は高まる 術後のアタッチメントゲイン、長期予後でのアタッチメントロスともに、それぞれ単独で行った場合との差はない 咬合調整により歯周治療の効果が上がると言えるだけの根拠はない。咬合調整は歯の動揺の進行的な増加など、外傷の

徴候が明らかな場合に適応すべきである 抗菌療法は効果があるか 局所投与、全身投与ともに効果はわずか。急性症状の場合は効果がある。角化歯肉幅が少ないと炎症を起こしやすい 角化歯肉幅は歯周組織の健康状態に影響を与えない。最後に、歯周治療のゴールは「歯周炎が進行しなくなる」とその目標値はプロービンググデプスが4mm以下、ブラークスコア20%以下、BOPがないこととし、オプションとして機能的要求、審美的要求に対応していくと話された。(仲屋正樹記)

